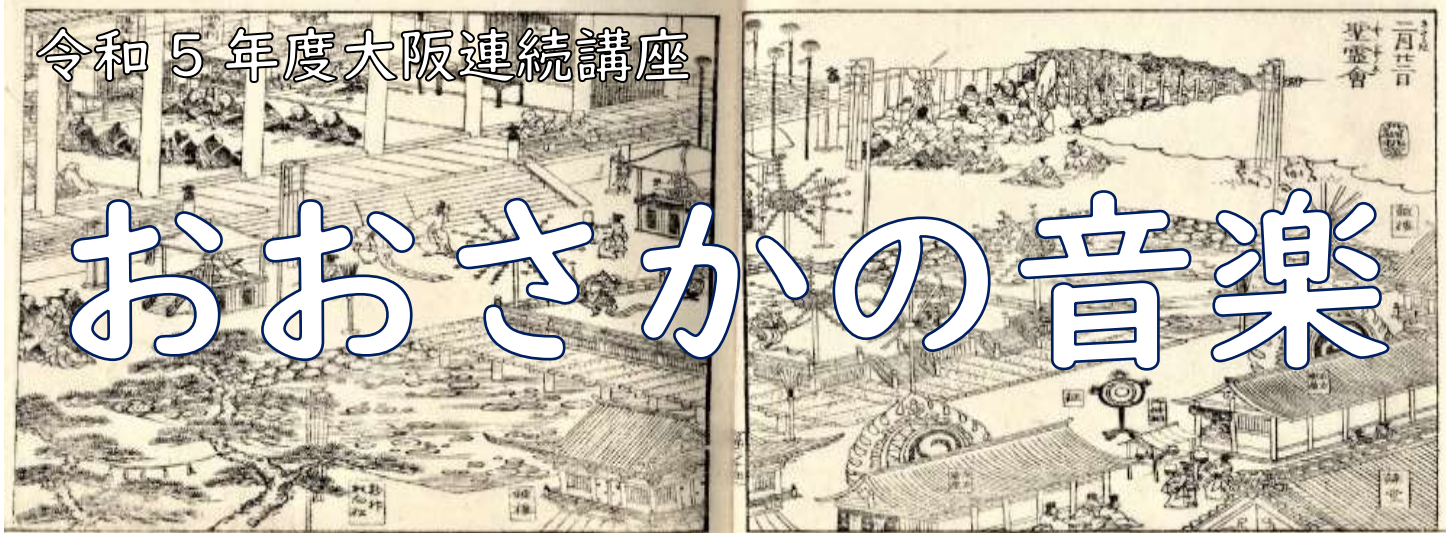


令和5年度大阪連続講座



「摂津名所図会 卷之二」より「聖霊會」(大阪市立図書館デジタルアーカイブより一部改変)

おおさかの音楽

古来より国際都市であったおおさかの地では、和洋を問わず様々な音楽が人びとに親しまれ、今日まで演奏されてきました。今年度の大阪連続講座は、古代から脈々と受け継がれる天王寺舞楽や、都島区ゆかりの音楽家・貴志康一の生涯、今年100周年を迎える大阪を代表する楽団・Osaka Shion Wind Orchestra(通称 Shion)のあゆみについて、講師に語っていただきます。※いずれの回も演奏会ではありません。

7/8(土曜日) 第1回 Shion100年のあゆみを語る

講師: 戸田 直夫 氏 (音楽研究家・大阪音楽大学演奏員)

聞き手: 石井 徹哉 氏 (公益社団法人大阪市音楽団理事長)

7/22(土曜日) 第2回 都島区網島町育ちの音楽家・ 貴志康一の生涯

講師: 五月女 賢司 氏 (大阪国際大学国際教養学部准教授)

7/29(土曜日) 第3回 天王寺舞楽の魅力

講師: 小野 真龍 氏

(天王寺楽所雅亮会副理事長・関西大学客員教授)

- 時間 午後2時から3時30分
(開場 午後1時30分)
- 定員 各回300名(当日先着順)
- 入場無料
- 会場 大阪市立中央図書館 5階大会議室

★手話通訳をご希望の方は申込が必要です。

各回とも開催日の2週間前までに、お名前・ご連絡先・講座名・参加回、「手話通訳等希望」を明記のうえ、ファックスでお申込みください。(FAX06-6539-3335)



Osaka Metro 千日前線・長堀鶴見緑地線
西長堀駅7番出口すぐ

◆主催・お問合せ◆ 大阪市立中央図書館

〒550-0014 大阪市西区北堀江 4-3-2

電話 06-6539-3302

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/>

第1回 7/8(土) Shion100年のあゆみを語る

今年で100周年を迎える「Osaka Shion Wind Orchestra」は、日本で最も長い歴史を持つ交響吹奏楽団です。創設以来大阪市民にごく身近な音楽団と親しまれ、のみならず、やがては日本を代表するプロフェッショナルの吹奏楽団として全国に知られる存在となりました。楽団の創設から現在までのあゆみを、音源や映像を用いてご紹介します。

講師：戸田 直夫(とだ ただお)氏 (音楽研究家・大阪音楽大学演奏員)

1969年兵庫県生まれ、大谷大学で真宗学を学び、卒業後大阪音楽大学へ進学、同大学院修了。トランペットを故加藤藤典、田中弘、D.Doyonに師事、指揮法を故辻井清幸、故松尾昌美に師事。同大学教育助手を務める。京都 西本願寺仏教音楽・儀礼研究所に招かれ、仏教音楽の研究を進めながら、大阪大学文学研究科文化表現論専修音楽学専攻博士前期課程へ進学、同大学院博士課程単位取得満期退学。現在、真宗大谷派願正寺住職、大阪音楽大学演奏員、兵庫県立兵庫高校吹奏楽部外部指導員、尼崎市吹奏楽団指導員、音楽研究家として吹奏楽を中心とする近現代日本音楽史の研究を続けている。

聞き手：石井 徹哉(いしい てつや)氏 (公益社団法人大阪市音楽団理事長)

千葉県出身。武蔵野音楽大学器楽学科を卒業。トロンボーンを前田保、井上順平の各氏に師事する。現在、公益社団法人大阪市音楽団理事長、関西トロンボーン協会常任理事、徳島文理大学非常勤講師。Osaka Shion Wind Orchestra バストロンボーン奏者。

第2回 7/22(土) 都島区網島町育ちの音楽家・貴志康一の生涯

明治42年、貴志康一はこの世に生を受けました。生まれは吹田、育ちは網島町(都島区)で、9歳の時に一家で芦屋に転居しました。17歳以降、スイスとドイツへ留学し、指揮者・作曲家として活躍しましたが、帰国後まもなく病に倒れ、28歳で他界しました。本講演では、日本クラシック音楽の草分けとして活躍した貴志の足跡を辿ります。

講師：五月女 賢司(さおとめ けんじ)氏 (大阪国際大学国際教養学部准教授)

専門は博物館学・万博史、都市計画史。英・ロンドン大学大学院修了(教育・国際開発修士)。英・レスター大学大学院修了(博物館学修士)。和歌山大学大学院単位取得満期退学。ザンビア、英国、セント Kitts の博物館に勤務後、国立民族学博物館、吹田市立博物館などを経て、2022年より現職。同志社大学、京都文教大学、追手門学院大学の非常勤講師を兼任。小規模ミュージアムネットワーク世話人、ICOM 地域博物館国際委員会理事、全日本博物館学会委員、日本展示学会理事。吹田市立博物館にて特別展「音楽家 貴志康一 生誕110年—吹田に生まれた若き天才」を担当。

第3回 7/29(土) 天王寺舞楽の魅力

大阪で二件しかない重要無形民俗文化財の一つである「聖霊会(しょうりょうえ)の舞楽(天王寺舞楽)」は、聖徳太子以来、1400年にわたって伝承されてきたといわれています。そのダイナミックな舞態は、『徒然草』で「都にはぢず」と評価され、都の貴顕の興味の的でした。その天王寺舞楽の紆余曲折の歴史と、その本質についてお話しします。

講師：小野 真龍(おの しんりゅう)氏 (天王寺楽所雅亮会^{がくそがりょうかい}副理事長・関西大学客員教授)

1965年、小野妹子の八男を開基とする浄土真宗本願寺派願泉寺(大阪市浪速区)に生まれる。幼少より四天王寺「聖霊会の舞楽」の童舞の舞人を務め、天王寺楽人の道へ。京都大学文学研究科博士課程(宗教学)を修了。宗教哲学の研究で京都大学博士(文学)となり、2008年より2016年まで相愛大学人文学部特任准教授を務める。その後、願泉寺の第44世住職を継いで現在に至る。継職後も京都大学文学部大学院等で兼任講師を務め、現在は関西大学客員教授。他方、雅楽演奏者としても研鑽を積み、1993年より重要無形民俗文化財「聖霊会の舞楽」(天王寺舞楽)を伝承する天王寺楽所雅亮会の会員となり、四天王寺の由縁の舞台や、住吉大社、巖島神社をベースに、雅楽演奏・演舞活動を行う。またフェスティバルホールでの定期演奏会にも毎年参加し、海外演奏経験も豊富である。雅亮会の後継者育成機関や、相愛大学等で雅楽実技も指導している。現在は天王寺楽所雅亮会副理事長、天王寺舞楽協会常任理事。

Web ギャラリー

「おおさかの音楽」

6/1(木)~8/31(木)

★大阪市立図書館デジタルアーカイブにて掲載

関連企画

3階ケース展示

「おおさかの音楽」

6/16(金)~9月20日(水)

★大阪市立中央図書館3階エレベータ前